

株主の皆様へ

第55期 報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

***Solution  
Provider***



## ごあいさつ



代表取締役社長  
古尾谷 健

### 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期のわが国経済は、好調な企業業績や設備投資を背景に、安定的な回復基調となりましたが、一方では原油価格の高騰や個人消費の低迷など不安定要素も多く、企業経営を取り巻く環境は引続き厳しい状況が続いております。

海外におきましては、米国や欧州は緩やかな回復基調が続き、また中国・アジア経済も引き続き高い成長率が続きました。

当社グループの主力市場であります自動車業界におきましては、平成18年度の国内生産台数は5年続けて1千万台の大台乗せを達成いたしました。

一方、情報通信関連業界におきましては、世界の携帯電話機市場が引続き高い成長を続ける中で、国内の出荷台数も少し明るい兆しが見えてまいりました。

このような状況下、当社グループは総力を挙げてグローバルな業績拡大と経営基盤の強化をめざし、今般、国内初の生産子会社「オーハシ技研工業株式会社」をグループに加えて、一丸となって地球環境の改善に貢献することを目的とした「開発提案型企業」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2007年6月

## Contents

ごあいさつ	1
連結財務ハイライト	2
トップインタビュー	3
海外子会社の状況	4
特集	5
連結財務諸表の要旨	7
単体財務諸表の要旨	8
株式の状況	9
会社概要	10

### 経営ビジョン

グループの存続と繁栄を目指し、生産財要素部品等を対象とする環境を重視した「開発提案型企業」として、世界のお客様に信頼されるオーハシテクニカを実現する。

# 連結財務ハイライト

	第51期 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日	第52期 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	第53期 自平成16年4月1日 至平成17年3月31日	第54期 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	第55期 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
連結売上高 (百万円)	25,051	27,399	27,816	32,387	34,804
連結経常利益 (百万円)	2,011	2,256	2,268	2,474	2,687
連結当期純利益 (百万円)	997	1,306	1,361	1,611	1,532
純資産 (百万円)	10,173	11,805	12,901	14,767	16,295
1株当たり当期純利益 (円)	105.21	137.85	138.04	161.51	81.43
1株当たり純資産 (円)	1,143.32	1,281.93	1,371.70	1,561.30	857.78

※54期末に1：2の株式分割を実施しました。

## ■ 連結売上高



## ■ 連結経常利益



## ■ 連結当期純利益・1株当たり当期純利益



※54期末に1：2の株式分割を実施しました。

## ■ 純資産・1株当たり純資産



※54期末に1：2の株式分割を実施しました。

## トップインタビュー

### 古尾谷社長に聞く



#### Q1.前期55期の概況は

前期55期、連結ベースでは5期連続で売上高、営業利益とも過去最高を更新することができました。この背景には、日系自動車メーカーの生産好調を受けて、自動車関連部品事業が国内外とも順調に推移したことや、情報通信関連事業の業績増加があります。

しかし、単体ベースでは計画した人件費増加をカバーするための思うような売上げ増加が確保できずに営業利益が伸び悩むなど、やや次期への課題を残したといえます。

#### Q2.今期56期の経営上の課題は何ですか

年々グローバル化が進む当社の事業体制を、いかに有機的に構築していくかということが、最大の課題あると考えています。

海外工場への積極的な投資と合わせて、国内に生産工場を保有するのもこのためです。これからは強みのある商品と技術を創造し、世界に向けて発信していくことが重要となります。さらには、それらを支える人財を確保し育成していく、こうしたことが一連となって、グローバルな業績拡大に繋がっていくものと考えています。

#### Q3.今期56期の業績の見通しについて

今期56期も売上げは増収の計画で進んでいます。その理由は、当社の最大の特徴である開発提案テーマの商品化を柱に、自動車部品事業では国内外とも引き続き順調な販売拡大が見込めること、情報通信事業では世界最大の携帯電話機メーカーをはじめ新しいお客様との取引が業績に寄与してくると見込まれます。

ただし営業利益では、国内初の生産子会社を連結対象としたことにより、少しだけ負の影響が予想されますが、世界に向けての次のステップアップを図るための助走期間と考えています。是非とも、期待していただきたいと思えます。

# 海外子会社の状況

## 米国

1987年、当社グループで最も早く海外進出を果たし、以来、OTUSとOTUSMは海外子会社の中核として安定した成長を続けています。新しい大型設備を導入し、より高付加価値部品による売上拡大をめざします。売上高は、83億60百万円（前年比110.6%）、営業利益は円安効果もあり7億11百万円（同154.1%）と増加しました。

## タイ

アセアン地域における自動車部品の製造・販売の拠点として、従来のOTT及びOSTに加えて、2006年10月、現地法人を買収しOTSIを設立しました。最近の日系自動車メーカーの積極的なアセアン進出を背景に、順調に業績を拡大しています。売上高は29億65百万円（同123.7%）、営業利益も2億90百万円（同134.0%）となりました。

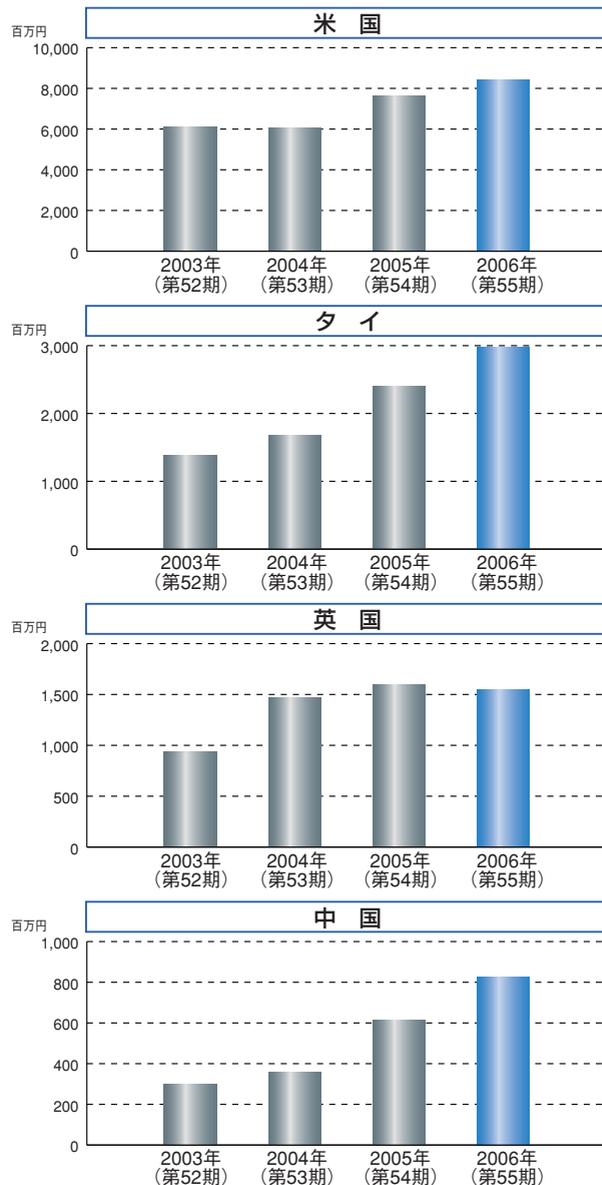
## 英国

1999年12月に英国に販売会社OTUKを設立して、安定した成長を続けてきましたが、当期の売上高は15億46百万円（同96.6%）、営業利益は1億56百万円（同101.4%）と僅かに伸び悩みました。

## 中国

2002年6月に携帯電話機用ヒンジの生産・販売子会社であるOTSH、2003年9月に自動車部品の販売会社であるOTPS、さらに2004年12月に自動車部品の製造・販売会社であるOTPGを設立して、活動を続けています。業績への本格的な寄与はこれからとなりますが、当期の売上高合計は8億23百万円（同134.5%）となりました。

### ■売上高推移



## 特集

## オーハシ技研工業とは、どんな会社ですか

今年の4月、当社グループに、国内初めての自動車部品の生産子会社「オーハシ技研工業株式会社」が誕生しました。会社や事業の内容、M&Aにより取得した狙い、今後のグループ内での役割などを、前川常務にお聞きしました。

**Q** 今回のM&Aの最大の狙いは何ですか

**A** 当社グループの事業がますますグローバル化する中で、国内においてもこれまでの開発提案営業だけでなく、「開発提案営業+強みに特化した開発生産工場の保有」ということが、どうしても必要になったためです。さらには、既にある米国、タイ、中国の生産子会社に対するマザー工場としての役割を果たすこととなります。新会社が保有する精密冷間鍛造技術を活かして、グローバルニーズに対応し、当社グループの業務拡大につなげたいと考えています。

**Q** 新会社の事業や生産品の特徴はどのようなものですか

**A** 特に精密冷間鍛造のための設備が、1,250tのプレス機をはじめとしてラインアップされています。これまで自動車の重要保安部品を中心に、コストダウンと省資源・省エネを実現してきた技術の蓄積と人財が、何よりの財産であるといえます。これらの技術と人財を活用し、新たな製品開発を実現したいと思います。



オーハシ技研工業全景

## オーハシ技研工業の役割＝成長のストラテジー



Q

業績の見通しはどうか

A

スタート間もないこともあり、旧会社の事業体制と生産品の見直しを進める中で、今期56期、売上げは25億円強、営業利益は残念ながらマイナスとなる見込みです。当然、連結対象となるので、連結ベースの営業利益もその影響が予想されます。ただしマイナスは今期、来期を通じて急速に解消される見通しであり、ごく近い将来、グループ業績に大きく寄与してくれると思います。



精密冷間鍛造設備

## 会社の概要

社名	オーハシ技研工業株式会社 (OHASHI GIKEN, INC.)		
所在地	愛知県東海市南柴田町トの割266番地の21	TEL 052-604-1451	FAX 052-604-0292
事業内容	自動車関連部品の製造並びに販売		
主要製品	冷間鍛造プレス部品 機械加工部品 板金溶接部品		
主要取引先(敬称略)	三菱自動車工業(株)、トヨタ自動車(株)、(株)ジェイテクト、日本精工(株) 他		
役員	代表取締役社長	菊地 孝一	
	取締役	前川 富義	
	取締役	杉岡 和之	
	監査役	青山 清治	
URL	<a href="http://www.ohashi-giken.co.jp">http://www.ohashi-giken.co.jp</a>		

# 連結財務諸表の要旨

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	第54期	第55期		第54期	第55期
	平成18年3月31日	平成19年3月31日		平成18年3月31日	平成19年3月31日
<b>資産の部</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>20,614</b>	<b>20,752</b>	<b>流動負債</b>	<b>10,685</b>	<b>10,559</b>
現金及び預金	8,231	7,141	支払手形及び買掛金	9,280	9,208
受取手形及び売掛金	8,167	8,964	未払法人税等	514	501
たな卸資産	3,551	3,705	賞与引当金	186	185
繰延税金資産	287	288	役員賞与引当金	—	79
その他	387	683	その他	704	585
貸倒引当金	△ 11	△ 31	<b>固定負債</b>	<b>753</b>	<b>962</b>
<b>固定資産</b>	<b>5,621</b>	<b>7,065</b>	退職給付引当金	486	516
<b>有形固定資産</b>	<b>3,420</b>	<b>4,092</b>	役員退職慰労引当金	245	271
<b>無形固定資産</b>	<b>555</b>	<b>525</b>	その他	21	174
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,645</b>	<b>2,446</b>	<b>負債合計</b>	<b>11,439</b>	<b>11,521</b>
投資有価証券	528	504	(少数株主持分)		
繰延税金資産	274	337	少数株主持分	29	—
長期性預金	—	600	(資本の部)		
その他	848	1,010	資本金	1,801	—
貸倒引当金	△ 5	△ 5	資本剰余金	1,586	—
<b>資産合計</b>	<b>26,236</b>	<b>27,817</b>	利益剰余金	10,924	—
			その他有価証券評価差額金	146	—
			為替換算調整勘定	308	—
			自己株式	△ 0	—
			資本合計	14,767	—
			負債、少数株主持分及び資本合計	26,236	—
			(純資産の部)		
			株主資本	—	15,349
			資本金	—	1,814
			資本剰余金	—	1,599
			利益剰余金	—	11,936
			自己株式	—	△ 0
			評価・換算差額等	—	813
			その他有価証券評価差額金	—	70
			為替換算調整勘定	—	742
			少数株主持分	—	132
			純資産合計	—	16,295
			負債純資産合計	—	27,817

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	第54期	第55期
	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
<b>売上高</b>	<b>32,387</b>	<b>34,804</b>
売上原価	24,987	26,568
売上総利益	7,399	8,236
販売費及び一般管理費	5,005	5,762
<b>営業利益</b>	<b>2,393</b>	<b>2,473</b>
営業外収益	99	234
営業外費用	18	20
<b>経常利益</b>	<b>2,474</b>	<b>2,687</b>
特別利益	64	99
特別損失	57	76
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>2,482</b>	<b>2,711</b>
法人税、住民税及び事業税	955	1,208
法人税等調整額	△ 82	△ 11
少数株主損益	△ 2	△ 18
<b>当期純利益</b>	<b>1,611</b>	<b>1,532</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	第54期	第55期
	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,993	888
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,384	△ 2,135
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 241	△ 324
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△ 19
現金及び現金同等物の増加額	379	△ 1,590
現金及び現金同等物の期首残高	7,852	8,231
現金及び現金同等物当期末残高	8,231	6,641

## 連結株主資本等変動計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	為替換算調整 勘定	評価・換算差額等 合計	少数株主持分	純資産合計
平成18年3月31日残高	1,801	1,586	10,924	△ 0	14,312	146	308	455	29	14,797
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	13	13			26					26
剰余金の配当			△ 234		△ 234					△ 234
役員賞与			△ 98		△ 98					△ 98
中間配当額			△ 188		△ 188					△ 188
当期純利益			1,532		1,532					1,532
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 75	434	358	102	461
連結会計年度中の変動額合計	13	13	1,011	△ 0	1,037	△ 75	434	358	102	1,498
平成19年3月31日残高	1,814	1,599	11,936	△ 0	15,349	70	742	813	132	16,295

注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 単体財務諸表の要旨

## 単体貸借対照表

(単位:百万円)

	第54期 平成18年3月31日	第55期 平成19年3月31日		第54期 平成18年3月31日	第55期 平成19年3月31日
<b>資産の部</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>16,045</b>	<b>15,819</b>	<b>流動負債</b>	<b>9,635</b>	<b>9,689</b>
現金及び預金	6,063	4,831	支払手形	340	344
受取手形	645	752	買掛金	8,440	8,415
売掛金	7,716	8,254	未払法人税等	400	395
商品	1,169	1,118	賞与引当金	152	155
繰延税金資産	113	122	役員賞与引当金	—	79
関係会社短期貸付金	107	136	その他	301	299
その他	235	637	<b>固定負債</b>	<b>665</b>	<b>714</b>
貸倒引当金	△ 6	△ 33	退職給付引当金	398	425
<b>固定資産</b>	<b>6,719</b>	<b>7,589</b>	役員退職慰労引当金	245	271
有形固定資産	675	659	預り保証金	21	18
無形固定資産	462	403	<b>負債合計</b>	<b>10,301</b>	<b>10,404</b>
投資その他の資産	5,581	6,526	<b>(資本の部)</b>		
投資有価証券	528	504	資本金	1,801	—
関係会社株式	2,089	2,176	資本剰余金	1,586	—
関係会社出資金	1,329	1,565	利益剰余金	8,930	—
関係会社長期貸付金	585	448	利益準備金	147	—
繰延税金資産	248	303	任意積立金	7,370	—
敷金保証金	239	239	当期末処分利益	1,413	—
保険積立金	472	493	その他有価証券評価差額金	146	—
長期性預金	—	600	<b>資本合計</b>	<b>12,464</b>	—
その他	95	201	<b>負債及び資本合計</b>	<b>22,765</b>	—
貸倒引当金	△ 6	△ 7	<b>(純資産の部)</b>		
<b>資産合計</b>	<b>22,765</b>	<b>23,409</b>	株主資本	—	12,933
			資本金	—	1,814
			資本剰余金	—	1,599
			利益剰余金	—	9,520
			自己株式	—	△ 0
			評価・換算差額等	—	70
			その他有価証券評価差額金	—	70
			為替換算調整勘定	—	—
			<b>純資産合計</b>	—	<b>13,004</b>
			<b>負債純資産合計</b>	—	<b>23,409</b>

## 単体損益計算書

(単位:百万円)

	第54期 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日	第55期 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
<b>売上高</b>	<b>25,776</b>	<b>26,845</b>
売上原価	20,659	21,418
売上総利益	5,117	5,427
販売費及び一般管理費	3,496	3,931
<b>営業利益</b>	<b>1,620</b>	<b>1,495</b>
営業外収益	283	332
営業外費用	12	15
<b>経常利益</b>	<b>1,891</b>	<b>1,811</b>
特別利益	56	99
特別損失	57	77
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,890</b>	<b>1,833</b>
法人税、住民税及び事業税	718	734
法人税等調整額	△ 56	△ 11
<b>当期純利益</b>	<b>1,227</b>	<b>1,111</b>

## 株主資本等変動計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価 差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
平成18年3月31日残高	1,801	1,586	8,930	△ 0	12,317	146	146	12,464
当期の変動額								
新株の発行	13	13			26			26
剰余金の配当			△ 234		△ 234			△ 234
役員賞与			△ 98		△ 98			△ 98
中間配当額			△ 188		△ 188			△ 188
当期純利益			1,111		1,111			1,111
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の当期の変動額(純額)						△ 75	△ 75	△ 75
当期の変動額合計	13	13	589	△ 0	615	△ 75	△ 75	540
平成19年3月31日残高	1,814	1,599	9,520	△ 0	12,933	70	70	13,004

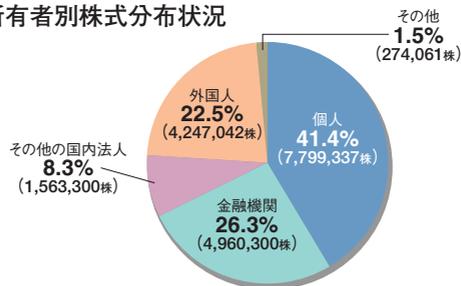
注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 株式の状況 (平成19年3月31日現在)

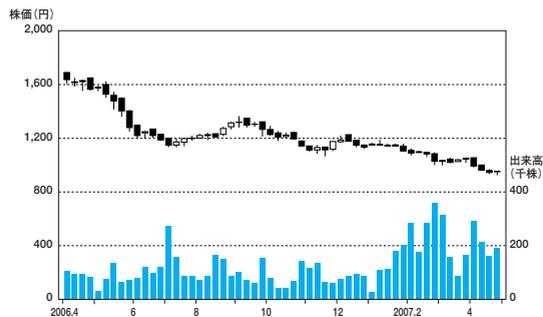
■会社が発行する株式の総数	64,000,000株
■発行済株式総数	18,844,040株
■資本金	18億1,417万円
■株主数	5,514名
■大株主	

ゴールドマン・サックスインターナショナル	2,697,600株	14.3%
株式会社みずほ銀行	881,000株	4.7%
日本生命保険相互会社	760,000株	4.1%
古尾谷 健	701,720株	3.7%
久保 好江	509,780株	2.7%
久保 雅嗣	509,780株	2.7%
阿部 泰三	502,600株	2.7%
オーハシテクニカ取引先持株会	478,100株	2.5%
ピーエヌピー パリバ セキュリティーズサービス ルクセンブルグジャスデック セキュリティーズ	420,000株	2.2%
株式会社みずほコーポレート銀行	419,000株	2.2%

## ■所有者別株式分布状況



## ■株式チャート (平成18年4月～平成19年3月)



## 株主の皆様のためのIR情報

### ① 役員の変動について

今回の株主総会をもって、役員が大幅に交替し、文字通りの新体制となります。

取締役社長は、古尾谷 健に替わり、常務取締役 前川 富義が就任いたします。新たなグローバル展開を指向する、オーハシテクニカとそのグループ各社へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



取締役社長 前川 富義

### ② 増配のお知らせ

期末配当金につきましては、株主の皆様へのご期待に應えるため、1株あたり10円とさせていただきます。これにより年間の配当金は、既にお支払いしている中間時の1株当たり10円と合わせて、1株当たり20円となります。なお前期は年間35円でしたが、2006年4月1日における1：2の株式分割を実施しましたので、実質40円となり、前期より増配とさせていただきます。

### ③ 株主優待策について

期末の株主優待品（お米ギフト券）の配布につきましては、下記の基準によりお送りさせていただきます。

100株以上	1kg
1,000株以上	2kg
5,000株以上	3kg
10,000株以上	5kg

# 会社概要 (平成19年3月31日現在)

社名 株式会社オーハシテクニカ  
OHASHI TECHNICA, INC.  
本社 〒163-0921  
東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階  
創業 1946年(昭和21年)11月  
1953年(昭和28年)3月 株式会社に改組  
資本金 18億1417万円(平成19年3月末現在)  
社員数 1,128名(連)、244名(単)  
(平成19年5月1日現在)

当社グループの事業内容

- ①自動車、情報・通信を中心とした組立産業の各種製品に使用される要素部品等の企画・設計開発並びにその製造・販売
- ②部品の調達・販売に関する物流並びに輸出入業務

役員  
(平成19年6月14日現在)

取締役社長	前川 富義
取締役	柴崎 衛(新任)
取締役	古性 雅人(新任)
取締役	小林正一郎(新任)
取締役	黒澤 孝之(新任)
取締役	久保田 忠
取締役	菊地 孝一
取締役	古尾谷 健
常勤監査役	青山 清治(新任)
監査役	三好 徹
監査役	田口 弘

上席執行役員	堀内 郁夫
上席執行役員	田中 春次
執行役員	豊田 孝二(新任)
執行役員	杉岡 和之(新任)

● 本社  
● 支店  
● 調達室



## 国内事業ネットワーク

本社	東京都新宿区西新宿2-3-1	新宿モノリス21階	
営業店	南関東支店	神奈川県伊勢原市田中257-2	ホワイトメゾンヤマキ2階
	北関東支店	群馬県太田市西矢島581-6	
	栃木支店	栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16	ルーセントビル5階
	日立支店	茨城県ひたちなか市新光町38	ひたちなかテクノセンターB201
	首都圏第一営業部	東京都国立市谷保3999-6	
	首都圏第二営業部	東京都国立市谷保3999-6	
	首都圏第三営業部	東京都国立市谷保3999-6	
	名古屋支店第一営業部	愛知県高浜市小池町2-15-10	
	名古屋支店第二営業部	愛知県高浜市小池町2-15-10	
	浜松支店	静岡県浜松市篠ヶ瀬町502-1	
	大阪支店	大阪府大阪市北区中津1-15-15	中津第2リッチビル5階
	S B 統括部	静岡県浜松市有玉台1-6-25	
	情報通信事業部	東京都港区虎ノ門3-7-2	
	調達技術企画グループ	東京都新宿区西新宿2-3-1	新宿モノリス21階
調達室	東京第一調達室	東京都新宿区西新宿2-3-1	新宿モノリス21階
	東京第二調達室	東京都新宿区西新宿2-3-1	新宿モノリス21階
	日立	茨城県ひたちなか市新光町38	ひたちなかテクノセンターB201
	諏訪	長野県諏訪市沖田町1-96-2	広瀬橋Sビル
	名古屋	愛知県高浜市小池町2-15-10	
	大阪	大阪府大阪市北区中津1-15-15	中津第2リッチビル5階

## 海外事業ネットワーク

米国	OHASHI TECHNICA U.S.A. INC. TENNESSEE BRANCH INDIANA SALES OFFICE GEORGIA SALES OFFICE
タイ	OHASHI TECHNICA MANUFACTURING INC. OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO.,LTD. OHASHI SATO (THAILAND) CO.,LTD. OHASHI S.I.(THAILAND) CO.,LTD.
英国	OHASHI TECHNICA UK, LTD. NORTH EAST SALES OFFICE
欧州	OHASHI TECHNICA FINLAND LTD.
中国	大橋精密電子(上海)有限公司 大橋精密件(上海)有限公司 大橋精密件制造(広州)有限公司

## 国内関係会社

オーハシ技研工業株式会社	愛知県東海市南柴田町トの割266-21
(株)オーティーシーロジスティクス	東京都国立市谷保3999-6
(株)オーティーシートライポロジー研究所	東京都新宿区西新宿2-3-1



<http://www.ohashi.co.jp>

## 株 式 メ モ

- 事業年度** 4月1日から翌年3月31日まで
- 配当金受領** 期末配当 毎年3月31日
- 株主確定日** 中間配当 毎年9月30日
- 定時株主総会** 毎年6月中
- 基準日** 毎年3月31日および中間配当の支払を行うときは9月30日  
その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
- 公告方法** 電子公告によるものとします。
- 株主名簿管理人** 東京都港区芝3丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所** 東京都杉並区和泉2丁目8番4号  
証券代行事務センター(〒168-0063)  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
- 同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 日本各支店  
日本証券代行株式会社 本支店



(証券コード:7628)

〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1新宿モノリス21階  
TEL.03-5321-3411(代)



この報告書は、エコマーク認定の古紙配合率100%の再生紙を使用し、アロマフリータイプ大豆インキで印刷されています。